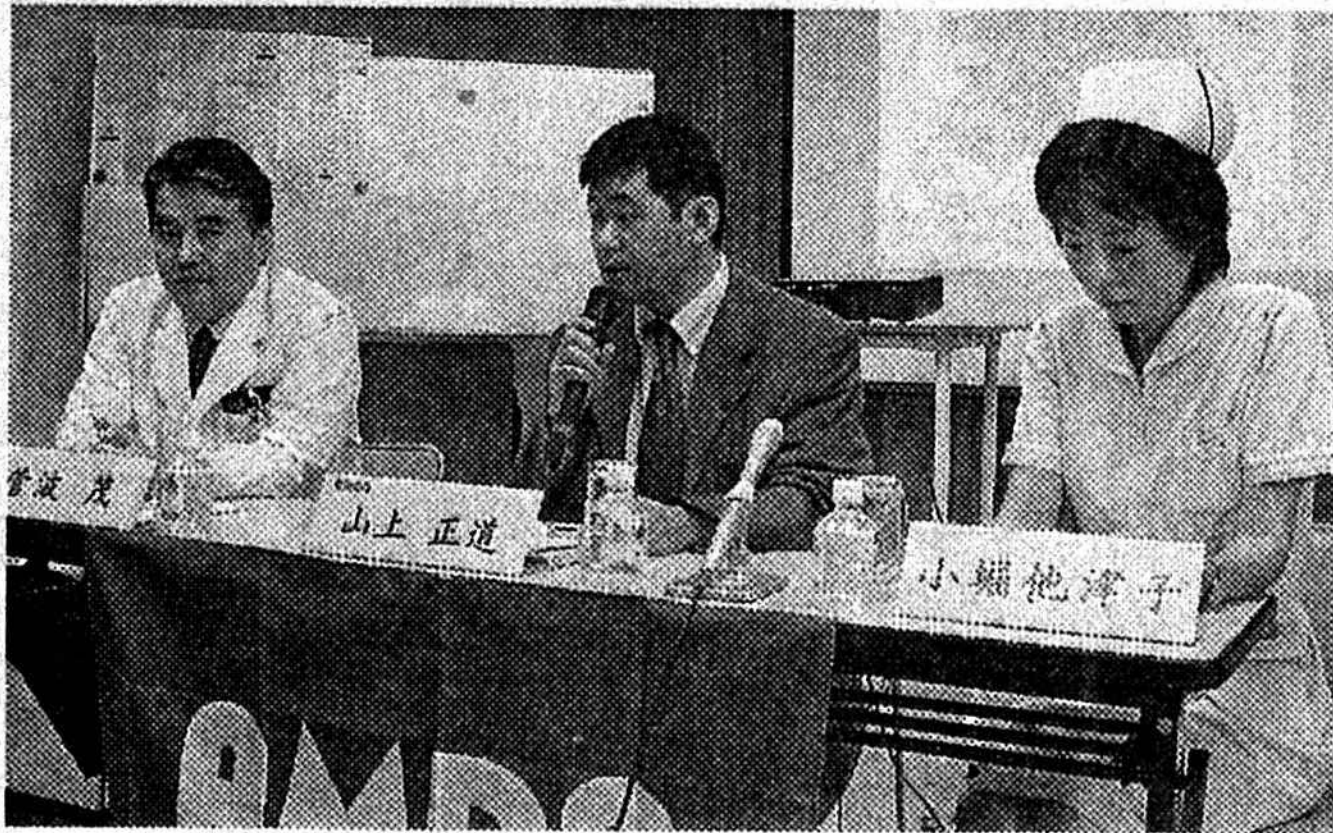


# 現地の様子報告

インドネシア土砂崩れ  
AMDDA調整員ら

洪水、土砂崩れで二百人を超える死者が出たインドネシア・スラウエシ島で、被災者支援に当たった国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市櫛津）の看護師小堀他



津子さん（四四）と調整員山上正道さん（三六）いずれも岡山市IIが三日、帰国会見を同市内で開き、現地の様子や活動状況を報

告した。

二人は同島にあるAMD Aインドネシア支部の要請を受け、六月二十三日に岡山を出発。最も被

害の大きかった南部のシンジャイ県で現地の災害対策本部と連携し、洪水で橋や家が押し流されたり、土砂

洪水、土砂崩れが発生したスラウエシ島での活動状況を報告する小堀さん（右）と山上さん（中央）

崩れで道路が寸断されるなどした山岳部の村の避難所を訪れた。仮設テントで約五日間、同支部の医師らと巡回診療を展開しながら、感染症予防の衛生教育も行った。

小堀さんは「高血圧の人や、下痢の症状を訴える子どもが多かった。避難所にトイレが一つしかないなど不衛生な面はあったが、感染症の心配はなさそうだ」。山上さんは「現地の災害対策本部と連携することで、早く正確な情報を得て、迅速に活動することができた。インフラ整備が進めば復興は早いと思う」と述べた。（長安亜矢子）